

日本食糧新聞

日本食糧新聞社
東京都中央区八重洲1-9-9
東京建物ビル(〒103-0028)

www.nissyoku.co.jp
編集・広告 ☎03(3432)3103
購読 ☎03(3432)2927
東京都港区西新橋2-21-2
第一南桜ビル(〒105-0003)
【支社局】北海道 ☎011(665)0721 /
東北 ☎022(225)2721 / 新潟・関東
☎03(3432)5700 / 長野 ☎026(228)
5520 / 静岡 ☎054(289)5802 / 中部
☎052(571)7318 / 関西 ☎06(6314)
4181 / 中国 ☎082(223)2535 / 九州
☎092(291)1790

購読料 半年32,424円
(税込・前金)
©日本食糧新聞社2012年

地方銀行39行の頭取らが揃ったオープニングセレモニー



「地方銀行フードセレクション2012」盛大に

「食」の力で、日本を元気に。をテーマに「第7回地方銀行フードセレクション2012」が23、24日、東京ビッグサイト東2、3ホールで開催され、初日の悪天候にもかかわらず来場者は前回実績295人増の1万0323人を記録した。第1回開催の06年は主催行5行、出展企業102社でスタート。回を重ねるごとに規模が拡大し、今年は39の地方銀行と620社が出展する日本を代表する食品専門の商談会に大きく成長した。将来的に、アジア地域と連携した「インターナショナル地方銀行フードセレクション」の実現も夢ではなさそうだ。

オープニングセレモニーには農林水産省・皆川芳嗣農林水産事務次官、金融庁・小野尚監督局参事官、経済産業省・照井恵光地域経済産業審議官の代理で、山

アジア各国と連携し飛躍

口剛地域経済産業政策課企画官、日本貿易振興機構・平井昌博理事らが参列。皆川事務次官は「39の地方銀行の頭取が集まり、地方からの大きな力を感じている。会場には全国北から南まで食の逸品が揃った。パイヤーはこの成長の芽を育ててほしい」と呼び掛けた。



主催行代表として常陽銀行の寺門一義頭取が、「権限のあるパイヤーが多数来場する。JETROが招へいた海外パイヤーとの個別商談会にも期待している。パイヤーはやる気と熱気と馬力、そして新商品を開発する意欲のある企業と

取引したいもの。2日間、地方銀行同士、出展社同士でタッグを組んで魅力ある商品を積極的にPRしよう」と呼びかけた。

共催・企画運営のリックキービズネスソリューション社長の澁谷耕一社長

共催・企画運営のリックキービズネスソリューション社長の澁谷耕一社長は「地元企業を熟知する地方銀行と、銀行との関係を構築できる当社、宣伝力の日本食糧新聞社がそれぞれ得意分野で補完してきた。本展の特徴は①安心・安全の取組み②新製品の開発③展示品の絞り込み。出展社のプレゼン能力や銀行のサポート力もレベルアップしており、行員研修に最適という頭取も増えていく。日本食を海外に輸出したいという食品メーカーのニーズにこたえ、海外の業者につなぐ役割を果たしていきたい」と未来像を語った。

23日夕方に実施された出展者交流会には約160社

が参加し、名刺交換や情報交換が活発に行われ商談につながる事案も生まれている。また23日は海外から招へいされた6カ国11人(アメリカ・シンガポール・マレーシア・タイ・イギリス・中国)のパイヤーと出展社の間で77に上る個別商談が、24日は会場内出展ブースで約50社と海外パイヤーの商談が行われた。

銀行名が入った幟旗(のぼり)が舞う会場に肥後銀行の「くまモン」、常陽銀行の「ハッスル黄門」、鳥取銀行の「トリピー」など人気のゆるキャラが登場。茨城空港PR隊の「いばらきスカイガイド」が華を添え、白虎隊の装束の行員が自行ブースを盛り上げた。マグロの解体ショーでパイヤーにアピールし、スタンラリーでエリア誘導する企画も注目された。

(山田由紀子)